【様式１】平成 26 年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	東広島市	学校名	西条中学校
校長名	中邑　徳之	電話番号	082-423-2529
分野・領域	□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	思考力・表現力を育成する授業の工夫 ―自分の考えを形成する言語活動を通して―		
当該ページのアドレス			
研究内容	①　主題設定の理由 新学習指導要領が完全実施され 3 年目となる。その間，本校では思考力・表現力の向上をめざして，言語活動を重視した授業つくりに取り組んできた。その研究は一定の成果を上げ，生徒が授業の中で，自分の意見を持ち，それを表現する活動に取組む姿が増えてきている。 しかし，学力検査等の結果分析から，生徒の「無答率」の多さに課題があることが分かった。これは，授業の中で，生徒一人ひとりに自分の考えを持たせる場面やそれを表現する場面を設定する意識が教員の中で定着しつつあるものの，いわゆる「テキストの解釈」「熟考・評価」にかかわって，効果的な指導に至っていないことによると考える。 そこで今年度は，研究対象の言語活動を，「自分の考えの形成」の場面に焦点化し，思考力・表現力を育成することのできる授業の展開について研究を進めることとした。 ②　研究仮説 授業過程において，自分の考えを形成するための言語活動を効果的に取り入れることによって，生徒の思考力・表現力が育まれるであろう。 ③　研究内容 授業過程において，「テキスト」に書かれていることを既有の知識や考え方，経験と結び付けて「熟考・評価」する，各教科の特質に応じた言語活動を効果的に取り入れた授業づくりに取り組む。		
備考			

【様式１】平成 26 年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	東広島市	学校名	向陽中学校
校長名	高橋　憲司	電話番号	082-425-0007
分野・領域	□人材育成　■学力・学習意欲　■生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　□教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　■伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	「児童生徒一人一人に確かな学力をはぐくむ授業づくり」 ～指導方法の工夫・改善を通して～ （生徒指導の三機能の授業への導入と和文化学習の継承）		
当該ページのアドレス	http://www2.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/~kouyo-chu/		
研究内容	実態を踏まえ、ねらいを３つに絞った。 ○基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る授業づくり （ア）課題を明確にし，その課題を解決するための指導方法の工夫・改善を図る。 （イ）個に応じた指導の充実を図る。 （ウ）和文化学習を通して、学びの姿勢を育成する。 ○生徒指導の三機能を生かした授業づくり （ア）自己肯定感を高め共感的人間関係を育成する。 （イ）学習意欲の向上と学習規律の定着を図る。 ○小中連携を深め９年間の一貫した指導を研究・確立する。		
備考			

【様式１】平成 26 年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

<table>
<tr><td>市町名</td><td>東広島市</td><td>学校名</td><td>八本松中学校</td></tr>
<tr><td>校長名</td><td>中森　英雄</td><td>電話番号</td><td>082-428-0202</td></tr>
<tr><td>分野・領域</td><td colspan="3">□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育
□学校・家庭・地域の連携・協力
□学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育
□教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信
□危機管理
□その他（　　）</td></tr>
<tr><td>研究主題</td><td colspan="3">思考力・判断力・表現力を高める授業の創造
～八中スタイルを土台とし，３つの視点での授業改善の取組を通して～</td></tr>
<tr><td>当該ページのアドレス</td><td colspan="3">http://www2.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/~hachihon-chu/</td></tr>
<tr><td>研究内容</td><td colspan="3">１　研究仮説
八中スタイル（単元の流れ，授業の流れ，学習規律）を土台として，言語活動の充実，特別支援教育，ＩＣＴ機器の活用の３つの視点で授業改善を行えば，さらに思考力・判断力・表現力が高まるであろう。

２　研究内容
これまで本校で取組んできた「単元の流れ」，「授業の流れ」，「学習規律」を共通の授業スタイル（八中スタイル）を土台として，言語活動の充実・特別支援教育・ＩＣＴ機器の活用の３つの視点で授業改善を行うことにより，思考力・判断力・表現力を高めるための研究を進める。
特に今年度は，３つの視点のうちＩＣＴ機器の活用において、タブレットを積極的に授業に取り入れ，思考力・判断力・表現力の高まりを目指す。
３　検証の指標
（１）　「全国学力・学習状況調査」Ｂ問題の正答率（全体の正答率，Ｃ評価の生徒の割合）
（２）　「標準学力調査（ＮＲＴ）」思考力・表現力の問題の正答率（全体の正答率，Ｃ評価の生徒の割合）
（３）　アンケート調査による意欲・意識の高まり</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

【様式１】平成 26 年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

<table>
<tr><td>市町名</td><td>東広島市</td><td>学校名</td><td>志和中学校</td></tr>
<tr><td>校長名</td><td>森岡　勝司</td><td>電話番号</td><td>082-433-2019</td></tr>
<tr><td>分野
・
領域</td><td colspan="3">□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育
□学校・家庭・地域の連携・協力
□学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育
□教育課程　□体力つくり　□情報教育　■伝統文化　□情報発信
□危機管理
□その他（　　）</td></tr>
<tr><td>研究
主題</td><td colspan="3">『活きてはたらく思考力・表現力の育成』
～和文化の心に学び豊かな心を育てる教育をとおして～</td></tr>
<tr><td>ＨＰ</td><td colspan="3">www2.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/~shiwa-chu/</td></tr>
<tr><td>研
究
内
容</td><td colspan="3">①　研究主題に迫る４つの視点
Ⅰ授業改善
<u>意欲をもって主体的に考える</u>
・“和文化教材”をもとに，学びに深まりをもたせる。
(一人一和文化授業の実践)
・思考力･表現力の向上のための“授業モデル”の定着
・全教職員による授業交流
Ⅱ体験活動と構えづくり
<u>杖道の教材化と学びの姿勢</u>
杖　道
・礼儀作法を体験的に身につける
・技の習得
・他の場で表現(演武)する
その他
・瞑目と立腰の徹底
・本物体験による学習意欲の向上
Ⅲ言語力の育成
<u>“確かな表現”から“豊かな表現”へ</u>
確かな表現
・全教科での“話型”モデル
・作文での“項目”設定
豊かな表現
・俳句，短歌，読書につなげる指導など
Ⅳ和の人間関係づくり
<u>授業を支える人と人の関係</u>
“江戸しぐさ”→“志和思草”“二声挨拶”“縦割り班活動”
“構成的グループエンカウンター”</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

【様式１】平成 26 年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	東広島市	学校名	東広島市立高屋中学校
校長名	奥村　和幸	電話番号	082-434-0011
分野・領域	□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	「思考力・判断力・表現力を伸ばすための問題解決的な学習指導の充実」 ―課題を設定し調べたことを伝える活動を通して―		
当該ページのアドレス	www2.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/~takaya-chu/		
研究内容	思考力・判断力・表現力を伸ばすための問題解決的な学習指導方法について		
備考			

【様式１】平成 26 年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	東広島市	学校名	磯松中学校
校長名	新谷　継志	電話番号	082-428-6675
分野・領域	□人材育成　■学力・学習意欲　■生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　□教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	「言語活動を通して確かな学力を育む授業の創造」 ～生徒指導の三機能を生かした、授業スタイルの実践を通して～		
当該ページのアドレス	www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/isomatsu-chu		
研究内容	①　研究主題の設定について 昨年度，学習意欲の向上と教科学力の向上を目指し，副題を「生徒指導の三機能を生かした，授業スタイルの実践を通して」として実践を積み上げてきた。これにより，生徒が分かる喜びや学ぶ意義を実感し，確かな学力を育むことに一定の成果を得ることができた。本年度はこの取組を継続･発展させることで，更に確かな学力を育みたいと考え，この研究主題を設定した。 ②　研究仮説 生徒指導の三機能を生かした，授業スタイルの実践を充実させれば，生徒一人一人が安心して自分の力を発揮できるようになり，学習意欲が高まり，学力も向上し，確かな学力を育むことができるであろう。 ③　研究内容 （１）生徒指導の三機能を生かした授業スタイルの実践 （２）学校教育全体の中で言語活動の充実を図る指導方法の実践 （３）大学教授，指導主事を招聘した授業研究・校内研修 （４）家庭学習の習慣化 （５）小中接続教育（ＥＴ）		
備考			

【様式１】平成 26 年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	東広島市	学校名	松賀中学校
校長名	西田　俊徳	電話番号	082-422-6277
分野・領域	□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	思考力・表現力を育てる授業のあり方 ―「思考スキル」と「表現スキル」を活用した授業づくりを通して―		
当該ページのアドレス	http://ns.city.higashihiroshima.hiroshima./ matsuga－chu/		
研究内容	①研究主題の設定について 本校では，昨年度，学習規律の徹底と言語活動の充実に向けた取組を行い，思考力，表現力を高める教育活動について集中タイムやベーシックチェック，自主勉強ノートなど様々な研究を進めてきた。しかしながら，基礎的・基本的な知識・技能はほぼ定着しているものの，思考を深めたり説明をしたりする問題に課題があり，また，人前で自分の思いを話すことに苦手意識を持つ生徒が多い傾向にある。これは本校で取り組んできた思考力・表現力の育成がまだ十分には成果を挙げていないことを表している。思考力・表現力の基盤となる言語に関する能力を育成するためには各教科において細かなステップで思考させ，表現させるためのスキルを活用させることが必要だと考える。そこで，今年度は授業の中で「思考スキル」と「表現スキル」を活用し，これらを習得させることで，思考力・表現力を育成する「授業のあり方」を研究することとした。 ②研究仮説 松賀中学校授業スタイルH26に沿った授業展開の中で，「思考スキル」と「表現スキル」の活用を学ばせれば，生徒の思考力・表現力を育てることができるであろう。 ③研究内容 「習得の確認」→「目標の確認」→「個人思考」→「集団思考」→「個人思考」→「まとめ」を基本とした「松賀中学校授業スタイルH26」の中に「思考スキル」（生徒が自分の考えを整理し，根拠を筋道立てて考えるためのツール）「表現スキル」（自分の考えを相手にわかりやすく伝えるためのツール）の活用場面を設定する。そして，検証の指標によって成果と課題を検証し，授業改善を図る等，ＰＤＣＡサイクルを活用した研究を推進する。		
備考			

□　【様式１】平成 25 年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	東広島市	学校名	高美が丘中学校
校長名	國﨑　康裕	電話番号	082-434-0026
分野・領域	□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	「多様な道徳的価値観にふれさせ，かかわりをもたせる道徳教育の創造」 ～生徒の心に響く指導方法の工夫をとおして～		
当該ページのアドレス	www2.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/~takami-chu/		
研究内容	①研究主題の設定について 今年度は，教科学習の充実はもちろんのこと，道徳授業を要とした道徳教育を充実させていく視点から，研究主題を設定した。 かかわり合う体験等をとおして，自他ともによさを認め，子どもたちの思いやりの心を育むとともに，集団や社会の一員としての自覚を高める道徳教育の充実を図る。とりわけ，道徳教育の要である道徳の時間において，子どもたちの心に響く指導方法を工夫し，道徳的価値の自覚を深めていきたい。また，近隣校や家庭・地域との連携を図り，子どもたちの育ちをつないでいく。学校教育活動全体が道徳教育という視点を明確に持って生徒の心を育てていきたいと考える。 ②研究仮説 生徒に多様な道徳的価値観に触れさせ，互いを認め，かかわり合うことを大切にした教育活動を推進することにより，生徒の自己存在感や共感的人間関係を構築でき，集団や社会の一員としての自覚と責任を育むことにつながる。 ③研究内容 〇生徒の心に響く指導方法の工夫 〇小学校との連携を生かした道徳教育の推進 〇教材の工夫		
備考			

【様式１】平成２６年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

<table>
<tr><td>市町名</td><td>東広島市</td><td>学校名</td><td>黒瀬中学校</td></tr>
<tr><td>校長名</td><td>石井　博基</td><td>電話番号</td><td>0823-82-2039</td></tr>
<tr><td>分野・領域</td><td colspan="3">□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育
□学校・家庭・地域の連携・協力
□学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育
□教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信
□危機管理
□その他（　　）</td></tr>
<tr><td>研究主題</td><td colspan="3">「基礎的・基本的な知識の定着を図り，生徒の学ぶ意欲を育む授業の創造～生徒指導の三機能を意識した授業づくりを通して～」</td></tr>
<tr><td>当該ページのアドレス</td><td colspan="3">www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/kurose-chu/</td></tr>
<tr><td>研究内容</td><td colspan="3">生徒の学習意欲を喚起させる学習プリントを効果的に活用し，基礎的・基本的な知識の習得・活用を徹底させるとともに，生徒指導の三機能を意識した授業づくりを進めることにより，生徒の自己存在感や学習意欲を高め，学力の向上につなげる。
●研究内容
〇言語活動の充実を基盤とした授業力の向上
・全教師が言語活動を取り入れた学習活動を授業に取り入れる。
・「美しい授業５つの約束（生徒編・教師編）」の徹底により学習規律を確立する。
〇確実な基礎学力の定着
・「黒中システム」の学習内容を改善するとともに，きめ細やかな指導を行う。
・家庭学習習慣の確立と学習時間の増加を図る。
〇指導方法の工夫・改善
・全国学力・学習状況調査，広島県「基礎・基本」定着状況調査の分析を行い，学力向上のための授業改善を行う。
・生徒指導の三機能を生かす授業づくりを推進する。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

【様式１】平成 26 年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	東広島市	学校名	福富中学校
校長名	井村　誠治	電話番号	082-435-2341
分野・領域	□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	課題解決型授業の充実を中心とした指導方法の工夫改善 ～小規模校の特性をいかして～		
当該ページのアドレス	www2.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/~fukutomi -chu/		
研究内容	課題解決型授業の充実に取り組む。生徒が、既習事項である「知識・技能」を使い、課題を解決する過程で身につけた「書く」「聴く」「考える」「説明する」などといった言語活動を通して「思考力・判断力・表現力」を活用し、この過程を通して学力の向上を図る。また、小規模校の特性をいかした、かかわりきる指導により、『生徒が関心をもって取り組むことのできる課題の設定・発問の工夫・板書の工夫』を通した課題解決型授業を充実させていく。 研究内容として視点は次の三点とする。 (1)　言語活動を充実させた課題解決型の授業の工夫改善 (2)　思考力・判断力・表現力を深化・拡充させる発問の工夫改善 (3)　思考力・判断力・表現力の活用をうながす板書・手引きの工夫改善		
備考			

【様式１】平成 26 年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

<table>
<tr><td>市町名</td><td>東広島市</td><td>学校名</td><td>豊栄中学校</td></tr>
<tr><td>校長名</td><td>新谷　三平</td><td>電話番号</td><td>082－432－2351</td></tr>
<tr><td>分野・領域</td><td colspan="3">□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育
□学校・家庭・地域の連携・協力
□学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育
□教育課程　□体力つくり　■情報教育　□伝統文化　□情報発信
□危機管理
□その他（　　）</td></tr>
<tr><td>研究主題</td><td colspan="3">「生徒同士のかかわりを通して，思考力・判断力・表現力を育成する」
・生徒指導の三機能を意識した授業づくり
・ICT の効果的な活用</td></tr>
<tr><td>当該ページのアドレス</td><td colspan="3">www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/toyosaka-chu/</td></tr>
<tr><td>研究内容</td><td colspan="3">①研究主題の設定について
文部科学省が示す「教育の情報化ビジョン」（平成 23 年 4 月）では，教育の情報化が果たす役割として，子どもたちの情報活用能力の育成や情報通信技術を効果的に活用したわかりやすく深まる授業の実現等をあげている。その実現には，教員の ICT 活用の指導力の向上や学校における ICT 環境の整備が必要である。
本校は，平成 24 年度に市の推進指定校となり，各クラスに電子黒板およびコンピューターが設置され，デジタル教科書や書画カメラ等を活用した授業を行った。しかし，教科によって活用頻度に差があり活用方法も導入などに限られていた。
本年度は，本校教員の ICT 活用能力の向上を図るとともに，授業における ICT 機器の効果的な活用方法の研究をさらに深め，「わかる授業」の構築につなげられるよう研究を進めている。特に，これら ICT 機器を生徒が効果的に活用し，生徒が互いに自分の考えを発表し，共有し合うことを通して主体的な学び合いに取り組ませることが，活用力の向上につながると考え，校内研修を計画・推進している。
②研究仮説
授業の中で，生徒に ICT 機器を活用した資料提示や説明，発表等を行わせることによって，主体的に生徒同士が関わり合い学び合うことができ，思考力・判断力・表現力が向上するであろう。
③研究内容
本年度は，本校教員の ICT 活用能力の向上を図るとともに，授業における ICT 機器の効果的な活用方法の研究を進める。
・ICT の効果的な活用についての研究
・生徒指導の三機能を生かした授業づくりの研究
・ICT 活用による授業改善の研究</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

【様式１】平成 26 年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	東広島市	学校名	河内中学校
校長名	清水　則成	電話番号	082-437-1128
分野・領域	□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	「基礎学力と、表現力を高める授業の在り方」 ―グループ学習と家庭学習を通して―		
当該ページのアドレス	www2.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/~kochi-chu/		
研究内容	**①主題設定の理由** 各学力調査等の結果を見ると，表現力においては情報を適切に取り出すことはできるが，その情報を基に自分の考えを書いたり，説明したりすることに課題が残った。 また，家庭学習においては家で全く勉強しない生徒はいないが，1 時間未満の生徒が３割弱おり，基礎学力の定着にも課題が見られた。そこで本年度は，昨年度に引き続き，言語活動の充実を図り，表現力を高めるためのグループ活動の工夫と基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るため家庭学習も含めた効果的な指導方法の工夫について研究を進めることとした。 **②研究仮説** **各教科等において，基礎的・基本的な知識・技能を習得させ，家庭学習の習慣化を図ることによって学習の基盤を構築し，「書く」「話す」といった言語活動の場面に効果的なグループ学習を工夫することで，生徒の基礎学力が高まり，分かりやすく説明する力が身につくだろう。** **③研究内容** 基礎学力と表現力を高めるための授業の在り方 (ｱ)「書く」「話す」といった言語活動の場面でのグループ活動の工夫 (ｲ)基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための，家庭学習も含めた効果的な指導方法の工夫		
備考			

【様式１】平成 26 年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	東広島市	学校名	中央中学校
校長名	左田　和幸	電話番号	082-431-5055
分野・領域	□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　■伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	「確かな学力を身につけ，探究的に学ぶ生徒の育成―学力向上を支える『和心教育』の実践を通して―」		
当該ページのアドレス	www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/chuou-chu/		
研究内容	①研究主題の設定について 昨年度は各教科において，自分の考えを筋道立てて整理し，他者に分かりやすく説明する力，すなわち論理的思考力についての研究に重点を置き，授業研究を進めていった。 その結果，「基礎・基本」定着状況調査や全国学力・学習状況調査では，市や県の通過率を上回り，基礎・基本はもちろん，活用力の定着状況も概ね良好である。これは，開校当初から「和心教育」を中心とした生活規律の定着に向け，すべての授業はじめに「立腰・黙想」を行い，全員が落ち着いて学習に臨む心構えをつくらせ，その土台の上に，授業改善について研究し，実践した結果である。 しかし，開校３年を終え，教職員の人事異動がある中で，本校の中心的な取組である「立腰・黙想」「黙動流汗清掃」「部活集合」「日本の歌『四季』」の本来の内容・目的が十分に認識されていない状況にある。その結果，授業規律の乱れや，研究・実践の効果が十分に表れていない実態がある。 そこで本年度は，本校の基本的な取組をもう一度見直し，再構築することで，学力向上の土台をつくり，その上に，ユニバーサルデザインと小中連携にもとづく「わかる授業」の研究，論理的思考力を生かした探究的な学習の研究を進めていきたいと考えている。 ②研究仮説 「和心教育」を基底に据え，生活規律を定着させ，落ち着いて学習に臨む心構えをつくらせることにより，確かな学力を身につけ，探究的に学ぶ生徒の育成を図ることができるであろう。 ③研究内容 ・ユニバーサルデザインにもとづく，わかる授業についての研究 ・探究的な学習の指導法についての研究 ・効果的な小中連携による接続教育のあり方に関する研究		
備考			